

全国協議会 ニュース

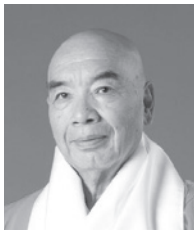
2017年1月1日発行 第295号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和 (会長)
http://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

新年のご挨拶

2017年を迎えました。日本骨髄バンク設立から25年、本年1月には造血細胞移植バンク事業に関する法律施行から3年を経過します。今年がより良い年となりますよう、当協議会の会長・理事長、関係機関の方々から、年頭のご挨拶をお届けします。

助け合いは、慈悲の心で



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
会長

仲田順和

明けましておめでとうございます。今年が、皆さまに幸い多い年となりますよう心から願っております。

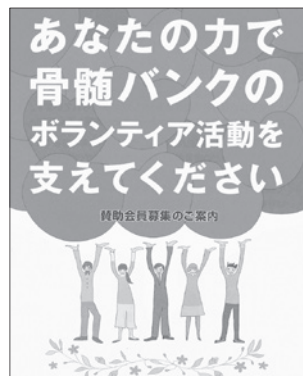
昨年、私が座主を務めております京都・醍醐寺は、初めて中国の上海と西安で醍醐寺展を開催いたしました。西安(旧・長安)は、真言宗の開祖・空海上人(弘法大師)が1210年前に真言密教を学んだ地であり、いわば「里帰り」ともいえるものでした。日中両国の仏教・芸術・文化の交流と悠久の歴史に向き合い、先達が残した文化遺産をいかに後世に伝えていくべきかを胸に問かけ、日本人の祈りとともに育まれた文化芸術をご理解いただき、日中両国の文化交流の一助になればと願いました。

さて、骨髄バンクやさい帯血バンク事業に関する法律が施行され3年が経ちました。この法律の目的は「造血細胞移植を必要とする患者さんに、必要

とされる造血細胞を、必要とされる時に迅速に提供すること」です。今年は、骨髄バンクのコーディネート期間短縮化、ドナー登録者拡大やドナープールの活性化などを実現すべく、関係者が一致協力してその成果を出すよう応援して行きましょう。

一方、当全国協議会の財政はここ数年、大変に厳しい状況が続いていますが、私たちのボランティア活動は命を救う助け合い運動であり、多くの市民のご理解と関係者のご尽力により、必ずやこうした困難を乗り越えて発展して行くものと祈念しております。私も全国の皆さまとともに頑張っております。

賛助会員募集



広く賛助会員を募っています。みなさん、ぜひとも賛助会員として私たちの活動を支援してください。

●賛助会員年会費●

特別賛助会員1口：10万円(個人・法人)
一般賛助会員1口：1万円(個人・法人)
サポート会員1口：2000円(個人)

白血病患者支援募金

募金箱の設置場所募集中！
ご協力をお願いします。



店頭や事務所などに募金箱を設置して、私たちの白血病患者支援を支えてください。集まった募金は、年に2回お届けする郵便振替用紙にてお振り込みをお願いしています。また、募金額については、協議会ニュースに、企業・団体・店舗名などと一緒に掲載させていただきます(匿名をご希望の場合は、匿名にて掲載いたします)。どうか皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

●常設型募金箱：組み立て式ハードプラスチック製

●簡易式募金箱：折りたたみ式プラスチック製

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

〈財団マンスリーJMDP(12月15日発行)より抜粋〉

■日本骨髄バンクの現状(2016年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,464	2,851	468,433	686,417
患者登録者数	237	263	3,471	49,642
移植例数	103	103	—	20,156

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／743人、献血併行型集団登録会／1,983人、集団登録会／86人、その他／39人

■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,385人／20代 70,541人／30代 140,634人
40代 200,208人／50代 53,665人

■11月の20歳未満の登録者277人

■11月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：245件

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みの相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

新年のご挨拶



厚生労働省健康局
難病対策課
移植医療対策推進
室長

井内 努

謹んで新年のお祝いを申し上げます。
平成3年の骨髄バンク事業の開始以来、これまで、関係者の方々の御理解、御協力により着実に実績が積み重ねられてまいりました。現在では、毎年約3万人の方々が新たにドナー登録を行って頂いており、また、骨髄バンクのあっせんによる骨髄や末梢血幹細胞の移植は、平成27年度には1,234件行われ、昨年10月に2万例を超えています。

このように本事業が発展致しましたのは、ドナー登録をされた方々や実際に骨髄・末梢血幹細胞の提供をされた方々の善意は言うまでもなく、骨髄バンク事業を支えて頂いているボランティアの皆様方や関係者の方々の長年にわたる御支援の賜物であり、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

現在、コーディネート迅速化、若年層向けドナー登録拡大策、日本骨髄バンクの財政改革の支援等に取り組んでいます。本年は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が平成26年1月1日に全面施行されてから3年目を迎えますので、現

状の課題を整理し、必要な措置を講じられるべく取り組む一年にしたいと考えております。

厚生労働省と致しましては、移植を希望する患者の方々にとって、病気の種類や病状に応じた造血幹細胞移植が行われ、その生活の質の改善が図られるよう、今後も、関係者の皆様の御意見も伺いながら、造血幹細胞の適切な提供の推進に取り組んでまいります。

結びに、造血幹細胞移植対策事業の推進に当たり、貴協議会の益々の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、会員皆様方の御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

年頭挨拶



公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長

齋藤英彦

新年を迎えるに当たり、謹んでご挨拶申し上げます。

当法人は造血幹細胞移植を非血縁者間で斡旋するため、平成3年に設立され、おかげさまで昨年12月に25周年を迎えることができました。

ドナー登録者数は約47万人にのぼり、累計移植数は昨年10月に2万例に到達しました。患者登録数は約3500人（うち国内患者1400人）、年間移植数は近年1200～1300例前後で

推移しております。

骨髄バンクが抱える問題は、①コーディネート期間の短縮 ②財政基盤の安定化 ③若年ドナーのリクルートが挙げられます。

現在、患者登録から移植まで約150日を要しているコーディネート期間をできるだけ短縮するよう、拠点病院との連携や末梢血幹細胞移植の推進に取り組んでまいります。

また、骨髄バンク事業には毎年約16億円の事業費が必要です。その財源はおおまかに申し上げますと、医療保険財源収入（4割）、国庫補助金（3割）、患者負担金（2割）、寄付金その他（1割）という割合です。

公的収入が7割を占める当法人の財政基盤は脆弱であり、平成26年度は1億円以上の赤字となり、27年度も2年連続の赤字を計上しました。主な原因は移植件数と寄付金の減少であり、当法人では経費の削減や寄付金の募集など、様々な施策を実施しております。

昨年は年齢超過やコーディネートの結果によるドナー登録の取り消し者が2万人を超え、現在登録中のドナーの年齢を考えると年々増加する一方です。若年ドナー登録者を確保するためには、全国のボランティア説明員の皆様の協力が不可欠であります。

これからも移植を必要とする患者さんのため、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

民進党本部で ドナー登録会



11月28日（月）に民進党本部にて献血併行型ドナー登録会が開催されました。

この取り組みは、4人のドナー候補

者が見つかりながら移植には至らず、さい帯血移植をするも残念ながら亡くなられた名古屋市議会議員・日比健太郎さんのご遺志を受け継ぎ作成された「骨髄ドナー登録推進プラン（日比プラン）」の一環として行われたものです。

民進党青年局では、日比さんが闘病の中でされた問題提起を基に、ドナー登録推進に関して国に意見書を提出するだけでなく、党内でも職員がドナー休暇を取得できるよう規定を変更したり、党のイベントで骨髄ドナー登録会を実施するなど登録を進めるよう活動されます。

日比さんがかつて秘書を務められた

衆議院議員古川元久さんは「一人でも多くの方に登録していただき悔しい思いをする患者さんがいなくなるようにしたい。党派は関係なく賛同してくれるはず。超党派で若い人たちのドナー登録をアピールしていきたい」と語られました。

また、この日ドナー登録した参議院議員の平山佐知子さんは「骨髄バンクのことは知っていたが、こんなに簡単に登録できるとは思わなかった。提供にあたっての説明もきちんとしていただいた。今後若い人達に勧めていきたい」と語っていただきました。

新年のご挨拶



日本赤十字社
血液事業本部長
田所憲治

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」施行から3年が経過しました。造血幹細胞提供支援機関としての日本赤十字社は既存の献血会場での骨髄バンク登録希望者の受入、各種連絡会議の開催や骨髄バンク・さい帯血バンクポータルサイト「造血幹細胞移植情報サービス」の運営、臍帯血採取施設向けの研修会等の実施に加え、新たな試みを開始しています。

まず、造血幹細胞提供の推進に関する若年層への普及啓発として、造血幹細胞提供に関わる関係団体の若手職員による作業部会を設置し、既成の枠に捕らわれることなくアイデアを出し合い作成した骨髄バンク・さい帯血バンク共通の広報誌「BANK!BANK!」を創刊し、昨年10月までにVol. 4まで刊行しました。

また、大人でも難しい造血幹細胞の働きについて子供にもわかりやすくコミカルに解説した漫画「ぞうけつおかん」を作成し、関係機関並びに教育機関等に配付しました。

さらに、地方自治体の教育委員会の依頼を受け、小中学校で造血幹細胞移植に関する講演や授業へ協力したほ

か、公式 Facebook ページの開設等、これまで骨髄バンクやさい帯血バンクの情報に触れる機会がなかった方々にも、様々な情報をお届けできるよう取り組んでおります。

一方で、医療機関の利便性向上を目的とする造血幹細胞提供に関する情報を一元的に管理する「造血幹細胞移植支援システム」の平成30年度の稼働を目指し構築を進めています。

各関係事業者の業務が円滑かつ適正に実施され、移植を待つ患者さん一人でも多く救うために、貴協議会をはじめ関係団体の皆様と一丸となって、事業の充実、発展のために取り組んで参りますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

法施行から3年目の課題



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長
野村正満

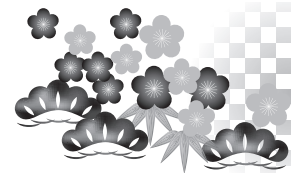
また、新しい年を迎えることができました。このお正月で「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行されてちょうど丸3年となります。この法律の附則には施行3年経過で、「状況等を勘案して」「必要な措置が講ぜられる」と書かれています。

ではこの3年間で、骨髄バンクとさ

い帯血バンクを介した移植状況はどう変化したのでしょうか。実績としての移植件数は骨髄とさい帯血を比較した場合、3年前までは骨髄の症例数がさい帯血より若干多かったのですが、2年前にはほぼ同数となり、昨年はさい帯が移植件数で骨髄を上まわって逆転することになりました。その背景には、コーディネートに時間を要する骨髄バンクよりも、移植適期を逃さずに現物保存でいつでも提供できるさい帯血バンクに移植ニーズからシフトしたことも大きな要因と考えられます。

また、移植減により骨髄バンクの収入が減少したこともあって骨髄バンクの財政が悪化しました。この解決策の一つとして患者負担金値上げが予定されるなど、法施行後の状況は前進したとは言えない状況です。こうした視点から、状況を改善する法律の見直しは必要不可欠ではないでしょうか。

さて、私たち全国骨髄バンク推進連絡協議会は財政状況の体質的改善を目指して賛助会員制度の強力推進による収入増と、経費削減の徹底を進めてきました。まだまだ道半ばではありますが、ようやく見通しが立つ状況になりつつあります。これからの全国協議会は患者支援事業により重点を置きながら、組織の再活性化を進めてまいります。多くのみなさまのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



コラム

今年の新年ご挨拶では、法施行から3年を迎え、その成果が問われる年であること強く認識されていました。特に、国・厚労省、骨髄バンクのトップからは、「コーディネート期間短縮化、若年ドナー登録者の拡大、財政問題」の3点を課題と認識し、その解決のために関係者が一体となって取り組む決意を感じました。昨年12月4日付け日本経済新聞に「骨髄移植素早く、100日が目標」の特集記事が掲載され、近畿地区の骨髄移植拠点病院が34病院をつなぐメーリングリストを活用して、骨髄採取日程調整が大幅に短縮したことを報じていました。今年是这样い取り組みが全国で展開され、成果をあげることを期待しています。(事務局・山崎裕一)

ボランティアあるある1コマ⑤ 杉本 はるみ



各地のたより
各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

神戸 マラソン・タスキランナー

8年前に、当時28歳だった次女を白血病で亡くされた畑中年明さん(60歳)は、各地のフルマラソンに骨髓バンクのタスキをかけて参加し、啓発活動を行っておられます。



私は、患者遺族で骨髓バンク説明員です。趣味のひとつにマラソンと献血があります。マラソンを始めて12年ほど。積極的に献血並行型ドナー登録会に参加するようになって3年。そして、『骨髓バンクにご協力ください!』のタスキを掛けて走るようになって2年です。

今シーズンも11月13日の岡山マラソン、12月4日の那覇マラソンで着用して走ってきました。タスキのおかげで、「骨髓バンク頑張れ」「骨髓バンク登録してるで」との沿道からのありがたい声援を受け、手を振って応え、力を貰いながら走れるのが嬉しいです。

献血に参加される方の中にも、骨髓バンクを知らない人が稀にいます。まして世間ではまだまだ浸透していないと思い、多数の目に触れる都市型マラ

ソン大会は有効な宣伝の場となります。ゴール後、新聞社の取材を受け翌日の記事として取り上げてくれば、骨髓バンクの宣伝、そしてドナー登録に繋がって行くと思っています。(2015年2月「姫路城マラソン」神戸新聞、12月「NAHAマラソン」琉球新聞、に記事が掲載されました)

移植を受けてもダメな場合もありますが、移植のチャンスすら得られないのは辛すぎます。一人でも多くの人にドナー登録してもらえるよう、今後も微力ながら頑張っていきたいと思っています。(神戸の会 畑中年明)

千葉 タオル帽子を患者さんへクリスマスプレゼント

昨年は、東京都や千葉県の病院(東大医科研病院、聖路加病院、帝京大病院、千葉大病院、亀田総合病院、千葉県こども病院、君津中央病院、旭中央病院)の患者さんにタオル帽子をお贈りしました。合計で160個をプレゼントできました。

抗がん剤の副作用で脱毛に悩むがん患者さんに、「タオル生地」のケア帽子を手作りし必要とされる患者さんに届けたい」との思いから、岩手ホスピスの会から型紙の提供をいただき、一人でこつこつ作り続け聖路加病院や千葉県こども病院などに届け、4年前からは6カ所の病院にクリスマスプレゼントとして贈ってきました。

昨年夏、日本赤十字社千葉県支部のご協力により「タオルキャップ作り講習会」を開催し、10月からは赤十字



左から4人(高校生)、中央右(看護師長、先生)、右端(西島)

地域奉仕団・裁縫奉仕部のスタッフさんと通信制高校「一ツ葉高校千葉キャンパス」青少年赤十字部の生徒さんのご参加で、「ドリームキャッププロジェクト」がスタートしました。

タオル帽子作りには、毎回多くの方々が参加されており、アプリケの提供をして下さる「ホトリボンアートの会」の皆さんもいらっしゃいます。

12月21日(水)、千葉県立こども病院に「ケア帽子」のクリスマスプレゼントをプロジェクトメンバーの高校生とともに届けました。生徒さんが、ケア帽子の一つひとつにメッセージを貼ってくださり、寄せ書きもプレゼントしました。

タオル生地は吸水性や通気性に優れ、洗濯することもできるメリットがあり、患者さんにやさしい帽子です。このプロジェクトに賛同して、全国協議会事務所の近隣にある「日東タオル」(東京都中央区)さんが新品のタオルを提供くださいました。こうした善意のネットワークを全国に広げ、「これからも必要とされる多くの患者さんに届けたい」と願っています。

(千葉の会 西島一恵)

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

【特別賛助会員】

匿名=埼玉

【一般賛助会員】

石橋和記、小森功夫=千葉▽匿名=東京▽ブランチ ヒロノヤ=岐阜▽古林勉=京都▽田中康博、米谷昇=兵庫▽緒方正男=大分▽たいら内科クリニック=沖縄▽

【サポート会員】

大橋芳之=宮城▽平川経晃、高久史磨、匿名=東京

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 11月21日~12月20日(敬称略)

●一般	伊藤 静子 現金 20,000円	樋口 勇一 現金 5,000円
株式会社 ハローデイ	中田 慎一 現金 200,000円	匿名 現金 3,000円
現金 560,000円	鈴木 純子 現金 1,348円	匿名 現金 2,000円
株式会社 三共 現金 30,000円	福岡 究 現金 10,000円	匿名 現金 50,000円
学校法人 桐蔭学園	匿名 現金 5,000円	●募金箱
現金 50,000円	●白血病	有限会社みどりえ
maddoc 現金 19,800円	早瀬 昭一郎 現金 3,000円	現金 12,000円
骨髓バンクを支援する東京の会	●佐藤さち子患者支援基金	ビッグドラゴン 現金 14,870円
現金 30,000円	公益財団法人	株式会社 有楽庁
藤波 敬子 現金 10,000円	大原記念倉敷中央医療機構	現金 6,949円
塩谷 圭 現金 1,000円	現金 9,539円	●かざして募金
千葉 文男 現金 2,000円	三森 裕 現金 30,000円	現金 2,400円

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会